

# 学校給食の歴史について知ろう

学校給食は、明治22年に山形県の小学校で始まったとされています。戦争によって中止された時代もありましたが、その後再開し、現在まで続いています。1月24日からの1週間は、「全国学校給食週間」といいます。これは、戦後アメリカの支援団体からの援助により、学校給食が再開されたことを記念して定められました。当時の代表的な献立を一例に、学校給食の歴史を紹介します。

**明治22年(1889年)** 山形県の私立忠愛小学校で、お弁当を持ってこられない子どもたちのために食事を提供したのが、日本の学校給食の始まりとされる。




[おにぎり、焼き魚、つけもの]

**昭和25年(1950年)** アメリカからおくられた小麦粉で8大都市の小学生に「パン・ミルク・おかず」の完全給食が実施される。




[コッペパン、ミルク(脱脂粉乳)、カレーシチュー]

**昭和17年(1942年)** 昭和16年に太平洋戦争が始まると、食料が不足し、全国的に給食が中止され始める。昭和19年には6大都市の小学生に特別配給物資による学校給食が実施される。



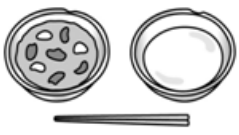
[すいとんのみそしる]

**昭和40年(1965年)** 昭和38年に「ソフトめん」が登場。また、昭和39~43年ごろにかけて、脱脂粉乳から牛乳へと切りかわる。




[ソフトめんミートソース、牛乳、フレンチサラダ]

**昭和22年(1947年)** 昭和20年に戦争が終わり、子どもたちの栄養状態を改善するため、この年から支援物資による学校給食が全国で開始される。



[ミルク(脱脂粉乳)、トマトシチュー]

**昭和51年(1976年)** 米飯(ご飯)が正式に導入される。当初はご飯をたく設備が整わず、おかずを作る釜でご飯をたく施設が多かった。



[カレーライス、牛乳、塩もみ、ゆでたまご]

## 現在では…

世界の料理や郷土料理など、給食で様々なメニューを食べることが出来るようになりました。また、給食の時間は食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために、さまざまなことを学ぶ時間になっています。

## 【食品ロス】をへらそう!

まだ食べられるものをすてることを、【食品ロス】といいます。その量は年間570万トンだそうです(令和元年度)。これは、1人が毎日お茶わん1ぱい分のご飯をすてているのと同じくらいだそうです。

食品ロスをへらすためには…

- スーパーなどで…奥から商品をとらずに、並べられている賞味期限の順番に買う。
- 表に少しのキズ・よごれがあっても、中身が問題なければ買う。
- 家やお店などで…食べきれる分量を買ったり注文したりして、食べ残しを出さない。

みなさんのちょっとした行動が、食品ロスをへらすことにつながります!

SDGs(持続可能な開発目標)より

